

令和5年度 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの分析

河内長野市立天野小学校 6年生

学力・学習状況調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
1一	68.8
1二	12.5
1三(1)ア	68.8
1三(1)ウ	87.5
1三(2)イ	93.8
1四	87.5
2一	87.5
2二	68.8
2三	68.8
2四	68.8
3一(1)	87.5
3一(2)	75.0
3二	87.5
3三	56.3

概要

複数の資料や文章を読み、解答する問題が今年もたくさんありました。ほとんどの問題において全国を上回る正答率でした。特に思考力、判断力、表現力において、話すこと・聞くことの問題が高い正答率でした。しかし、書くことは、低い正答率でした。問題形式でみると、選択式、短答式の正答率は高いものの、記述式に課題が見られました。

特に成果が見られた問題例

- ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う問題
- ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題。
- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題。

特に課題が見られた問題例

- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題。
- ・日常使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題。

算数

設問番号	学校の平均正答率
1(1)	100.0
1(2)	81.3
1(3)	75.0
1(4)	87.5
2(1)	56.3
2(2)	87.5
2(3)	12.5
2(4)	31.3
3(1)	81.3
3(2)	50.0
3(3)	62.5
3(4)	31.3
4(1)	25.0
4(2)	75.0
4(3)	62.5
4(4)	68.8

概要

「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の各領域から、5年生までの内容が出題されています。学習指導要領の領域で見ると、正答率はデータの活用が高いですが、図形は低いです。思考・判断・表現は比較的正答率が高いですが、知識・技能は、全国より正答率が下回っています。記述式の無回答率が低く、正答率は、全国よりも高く、前向きに取り組む姿勢が見られます。

特に成果が見られた問題例

- ・比例の関係を理解し知りたい数量の大きさを求める問題。
- ・底辺と面積の関係をもとに、面積の大きさを判断し、理由を説明する問題。
- ・加法と乗法を混合した式を場面と関連付けて読み取る問題。

特に課題が見られた問題例

- ・切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角を求める問題。
- ・百分率で表された割合について理解する問題。
- ・わり算の筆算で各段階の商の意味を考える問題。

すくすくウォッチ理科

設問番号	学校の 平均正答率
1(1)	18.8
1(2)	50.0
1(3)	68.8
1(4)	75.0
2(1)	50.0
2(2)	93.8
2(3)	93.8
2(4)	81.3
2(5)	93.8
2(6)	12.5

概要

理科は、「エネルギー」「地球」の二つの領域から、出題されました。「エネルギー」を柱とする領域では大阪府平均を下回り、「地球」の領域では大阪府平均を上回りました。知識・技能の問題は、正答率が高く、思考・判断・表現の問題は正答率が低くなっています。選択式・短答式では、67%、81.3%の正答率ですが、記述式は59.4%と低くなっています。

特に成果が見られた問題例

- ・月の形の名称について理解する問題。
- ・月の観察記録に必要な内容を理解する問題。
- ・雨が降り出すときの雲の様子について理解する問題。

特に課題が見られた問題例

- ・乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する問題。
- ・とじこめられた空気は、おされると体積が小さくなること、体積が小さくなるほど、もとにもどろうとする力が大きくなることを理解する問題。
- ・気象衛星の雲画像とアメダスの降水量の画像から、今後の天気の変化について考察する問題。

すくすくウオッチ (教科横断的な問題わくわく問題)

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	77.1
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	70.3
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	90.6
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	82.8
E 興味関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	100.0

概要

児童にとって身近な「ソース」を題材とし、種々の資料を読み取り、それに基づいて思考する力や、自分の立場を明確にした上でその理由を表現する力を育てることを目的とした問題やロボット掃除機の観察をきっかけとして論理的に思考する問題、大阪万博に関連した「ピクトグラム」を題材とし、資料を分類・整理し、相手にわかりやすく伝えるための工夫を考え表現することを目的とした問題が出題されました。

特に成果が見られた問題例

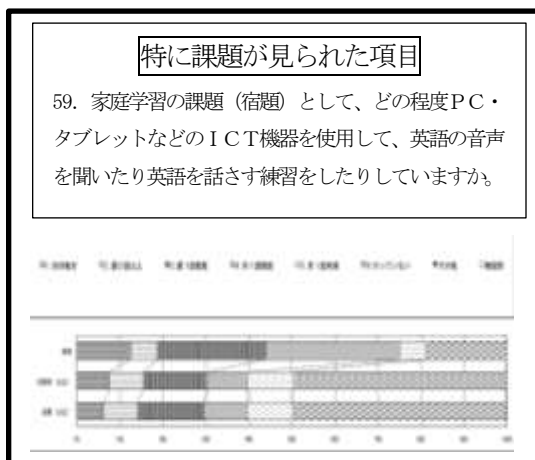
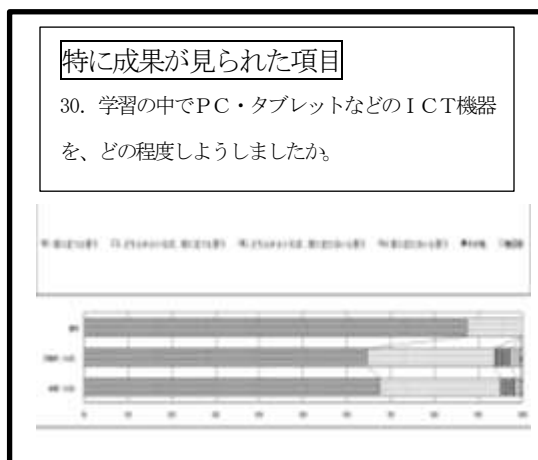
- ・「ロボット」を題材とし、資料から問題を読み取り、問題を解決するためにどんなことをするロボットをつくりたいかを表現する問題。
- ・ピクトグラムを題材とした問題で、相手の立場に立って物事を考え、自分にできることをやっていこうという意欲を持たせる問題。

特に課題が見られた問題例

- ・基礎的な読み取りの力を問うと共に、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の複数の資料を関連させながら読み取る問題。

学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

児童アンケート



概要

特に成果が見られたアンケート項目例

「30. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度しようしましたか。」という項目に当てはまる児童が多かったです。学校の授業や持ち帰りの家庭学習で、積極的にタブレット端末を活用することが多く、授業では特に科考えを伝えるツールとして活用したことが考えられます。

特に課題が見られたアンケート項目例

「59. 家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話さず練習をしたりしていますか。」という項目では、大府市や全国平均と比較すると天野小学校の児童は、高いが他教科と比較すると英語に対する苦手意識が高い児童が多いです。宿題でICT機器を活用し英語に触れる機会を増やしたいです。

良かったところ

- どんなことにも前向きに挑戦しようという児童が多いです。
- 日直や係りの仕事など決められたことを真面目に取り組める児童が多いです。
- 学級会の話し合いでは、少数意見を大事にする児童が多いです。
- 朝食を毎日しっかりと食べてきている児童が多いです。
- 家の中にその日の出来事を家の人に伝えている児童も多く、家庭環境が整っています。

課題として見られたところ

- 自分の感情を表に出すことを苦手と感じている児童が多いです。
- 上手いできない時に試行錯誤することが苦手な児童が多いです。
- 長期にわたる計画に対しての持続力が低い児童が多いです。
- 最後まで取り組みたい児童が多く解答時間が足りないと答える児童が多かったです。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

- ア 複数の資料を関連させて問題を読み取る活動を継続します。
- イ 理科の授業では、問題意識→予想→実験→結果（観察）→考察という流れを重視しています。予想や考察から思考力を高めて、実験や観察により、体験的な学びをしています。ノートに自分の考えを書いて発表し、表現力を高めています。
- ウ 具体物を使って作業をさせながら考えさせる授業を意識します。
- エ かけ算わり算等の計算の仕方だけを理解するのではなく、筆算の意味を理解させながら正答を導きだせるようにします。
- オ 図やグラフ・表から情報を読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、表現できるようにしていきます。
- カ 授業の中で単に知識・技能を理解させるような授業ではなく、理解したことを活用して考えを説明する力をつけさせるようにしていきます。
- キ 児童一人ひとりが、見通しをもてるように、授業の流れや勉強の計画を共有していきます

(2) 児童のみなさんへ

- ア 聞くことは、とても大切な力です。立派な聞く力は、急激に身につくものではありません。最後まで聞く、相手を見る、理解する、普段から聞く練習をし、少しずつレベルアップしていきましょう。
- イ 今話題のニュースは、何かわかりますか。ニュースを見るだけでは、まだ序の口です。ニュースを見て、世間はどのように考えているか、自分はどのように考えるか、より多くの人が幸せになるにはどうすればいいか、を考える「くせ」をつけましょう。
- ウ 「時は金なり」ということわざがあります。若い時に、いろいろな経験や知識をつけることで、今後大きく成長していきます。ゲームやスマホとはうまく付き合い、使う時間を決めましょう。あなたの貴重な時間を、何に使うのかよく考えましょう。

(3) 保護者のみなさまへ向けて

- ア 「あのさー」「なんで？どういう意味？」はチャンス

子どもが話したいことを話すときが、話し上手になる1番のチャンスです。また、子どもが疑問に思って聞いてきたときが最大のチャンスです。つい、「あとでね。」「自分で調べ。」としてしまうこともあるかもしれません。子どもの好奇心は、突発的です。時間の許す限り、一緒に考えたり、調べたり、

子どもに教えてもらったりすると子どもはどんどん吸収していきます。そうすることで、知的好奇心は継続的になっていきます。

イ 読書に親しむ習慣づくりを

読書は、生活力、学力の基礎となります。読書によって身につく力は、無限大です。語彙力はもちろんのこと、集中力、読解力、分析力など様々です。小説や物語は、気持ちを理解する力がつきます。図鑑やノンフィクションは、新しいことを知るための調べる力がつきます。

お子様には、その子に合った本を選ぶことを、お勧めします。年齢や話題を基準とした本が、常にその子に合うとは限りません。興味関心がある本をきっかけに読んでいくと、「読む力」が高まります。「読む力」がついてくると、いずれ文字数が増えたり、専門的な本を選んだりするようになります。いろいろな本を自然と読めるようになると、生活力、学力ともに自立へと進んでいくと思います。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子様を保護者の方といっしょに育てていきたいと思っております。今回の結果を参考にさせていただいて、ご家庭でも今後のことについて、お話していただくと幸いです。よろしくお願ひ致します。